



* 挨拶 *

戸田市教育委員会
教育長 戸ヶ崎 勤

令和3年度戸田市立教育センター教科等研究グループ（教育センター研究員）等による研究の成果がまとまりましたので、ここに「戸田市教育研究集録」として刊行いたします。

今年度は、GIGAスクール元年を迎え、1人1台端末の運用が開始されました。また、小学校に続き、中学校も新学習指導要領が完全実施となり、まさに日

本の教育が大きな変革期を迎えた1年となりました。

今年度、110名の教育センター研究員の皆様には、コロナ禍の逆境を変革への力に変え、「令和の日本型学校教育」の実現に向け、研究を深めていただきました。今年度の研究を生かし、今後も個別最適な学びと協働的な学び、そして、子供を主語にする学校づくりの実現に向け、先生方がアクティブ・ラーナーとなり、不断の授業改善に取り組まれることを願っております。

結びに、真摯に研究を進められました先生方に対し敬意を表しますとともに、多くの先生方が学校や教科等の研究、新しい学びの推進役となっていただくことを期待申し上げ、挨拶いたします。

効果的な指導方法の研究に関する調査の結果考察について

教育政策シンクタンク

* はじめに

本市では、平成28年度から、効果的な指導方法の研究に関する調査（以下、指導方法の調査）に協力してきた。また、平成30年度（平成31年1～3月に実施）からは、共通して以下の項目で調査を行っている。

本考察は、令和元年度、令和2年度の2年間分の結果及び令和3年度 埼玉県学力・学習状況調査（以下、県学調）の児童生徒質問紙調査との比較をまとめたものである。

I 学習指導に関すること	戸田市版アクティブ・ラーニング指導用ルーブリックに基づくもの〈全17項目〉
II 学習指導に関すること	上記Iのほか、効果的な指導方法であると考えられるもの〈全9項目〉
III 学級経営に関すること	学級教育目標や教室環境づくりなど〈全5項目〉

1. 指導方法の調査結果について

令和2年度指導方法の調査結果

	I 学習指導に関すること				II 学習指導に関すること			III 学級経営に関すること		全項目平均
	①「何ができるようになればよいか」を意識し、本時の目標を設定した	③子供たちに授業の目標や課題を明確に伝えた	⑪子供たちが働かせるべき「見方・考え方」を意識していた	⑫「見方・考え方」を働かせることができるような学習活動を設定した	⑬資料や計画的な板書などによって、授業内容を視覚的に印象づけた	⑭学習が定着していない子供に対し、繰り返し教えることを徹底した	⑮それぞれの子供たちが何をしているか確認しながら授業を進めた	⑯スケジュールを見えるように掲示するなど、日々の生活の中で子供が見通しを持って活動できるようにした	⑰ユニバーサルデザインの視点を、教室環境づくりや授業づくりなどにおいて重視した	
小学校	4.31	4.45	3.83	3.72	4.08	4.04	4.27	4.24	4.18	4.07
中学校	4.41	4.41	3.90	3.84	4.26	3.86	4.30	3.93	3.93	4.03
市平均	4.36	4.43	3.86	3.78	4.17	3.95	4.28	4.09	4.05	4.05

- ・アンケートは、5件法（ほぼ当てはまる、多くにおいて当てはまる、どちらとも言えない等で回答）
- ・5件法での回答に、5段階の数値を割り当て、上記の表にはその平均値を示している。
- ・黄色いセルは、全項目平均よりも小さい値である。



令和元・2年度調査

小学校、中学校ともに、「I 学習指導に関すること」において、授業の目標等を明確に伝えることについての数値が高いこと、深い学びの視点に関する数値が項目平均よりも低いことが明らかとなった。今後はより一層、事前の教材研究の際に、各教科等固有の見方・考え方とは何かを明確にするとともに、見方・考え方を働かせるための指導方法の吟味が重要となる。また、ユニバーサルデザインに関する項目などは、小学校の方が高い数値であった。これらの様相は、令和元年度の調査結果でも同様であった。

2. 効果的な指導方法の研究に関する調査の結果と埼玉県学力・学習状況調査からみる授業の自己分析について

(1) 主に主体的な学びに関して（戸田市版アクティブ・ラーニング指導用ルーブリックより）

● 教員質問紙調査

授業の目標に応じ、子供たちの考えを広げ深められるような教具を用いた。【主に対話的な学びに関して】

令和2年度調査結果：小学校4.12／5.00、中学校4.09／5.00

【児童生徒質問紙調査（令和3年度 県学調より）】

▼グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと

上記回答項目における「よくあった」・「ときどきあった」の合計					
小4回答（小3算数）	戸田市 79.0%	県 76.2%	中2回答（中1数学）	戸田市 76.6%	県 76.3%
小5回答（小4国語）	戸田市 81.6%	県 81.4%	中3回答（中2国語）	戸田市 76.6%	県 76.3%
小6回答（小5算数）	戸田市 79.8%	県 78.7%	中3回答（中2英語）	戸田市 73.8%	県 71.3%
中1回答（中1国語）	戸田市 86.0%	県 87.3%			

I 学習指導に関する上記の「主に対話的な学び」に関する項目の一つについては、全31項目の中で、令和3年度小学校4.12／5.00、中学校4.09／5.00と平均よりも高い数値であった。また、このことについては、児童生徒質問紙調査においても、上記のように、埼玉県平均値をほぼ全ての学年で上回っていた。特に、中学校2年英語を振り返った回答では、2.5ポイント上回っていた。これらのことから、教師の自己分析どおり、一定の授業改善に活かされていると考えることができる。

(2) 児童生徒を称賛することに関して

● 教員質問紙調査

日々の生徒指導において、子供一人一人の伸びや変容を気にかけ、積極的に認め褒めるようにした。

令和2年度調査結果：小学校4.37／5.00、中学校4.29／5.00

【児童生徒質問紙調査（令和3年度 県学調より）】

▼学校の先生たちは自分のよいところをみとめてくれましたか。

上記回答項目における「認めてくれた」・「どちらかと言えば、認めてくれた」の合計					
小4回答	戸田市 88.1%	県 89.6%	中1回答	戸田市 90.0%	県 93.1%
小5回答	戸田市 88.1%	県 90.7%	中2回答	戸田市 92.2%	県 93.1%
小6回答	戸田市 86.4%	県 90.8%	中3回答	戸田市 89.7%	県 92.6%

Ⅲ 学級経営に関する「児童生徒を称賛すること」についても、全31項目の中で高い数値であった（令和元年度の調査でも、小学校4.29／5.00、中学校4.23／5.00と高い数値）。しかしその一方で、県学調の児童生徒質問紙調査では、上の表のように、埼玉県平均がおよそ全ての学年が90%以上のところ、戸田市平均は、約1～3ポイント低い値であった。これらのことから、「児童生徒を称賛すること」についてはまだ改善の余地があり、教師の自己分析と児童生徒の受け取り方にはギャップがある可能性もある。

どの項目についても同様であるが、教師の自己評価のみで実態を把握せず、同じような児童生徒の質問紙調査の回答とも照らし合わせながら、現状を把握していくことが大切だと考えられる。

＊おわりに

児童生徒と教師と双方向から授業を振り返ることにより、教師の意図的指導がどうすれば実現できるかを明らかにできるであろう。また、今回の考察は、あくまで市平均の数値からみる考察である。学校や学級（小4以上）規模等での調査を実施することで、さらに実状に寄った分析が可能となるはずである。